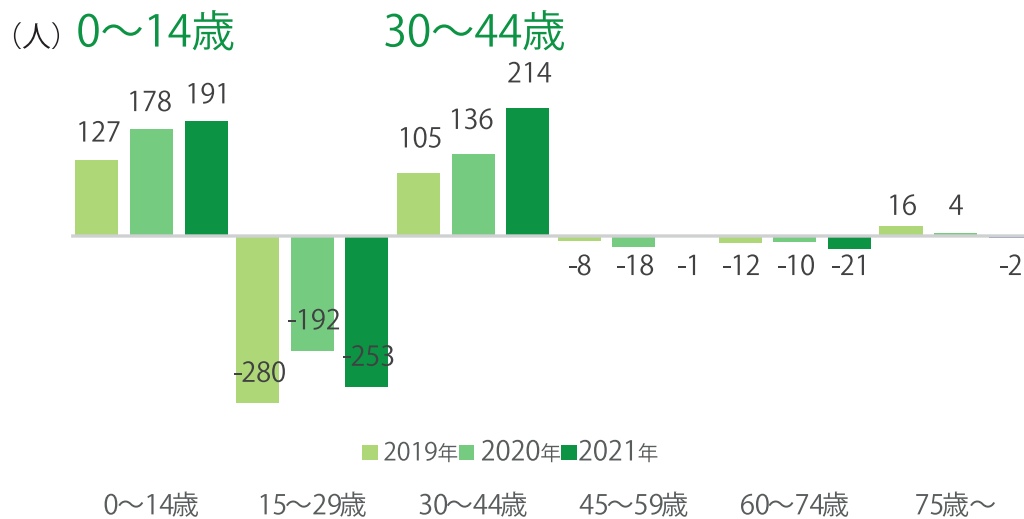


年齢別に見ると➡子育て世代に選ばれるまちへ

転入超過数（年代別 2019～2021年）

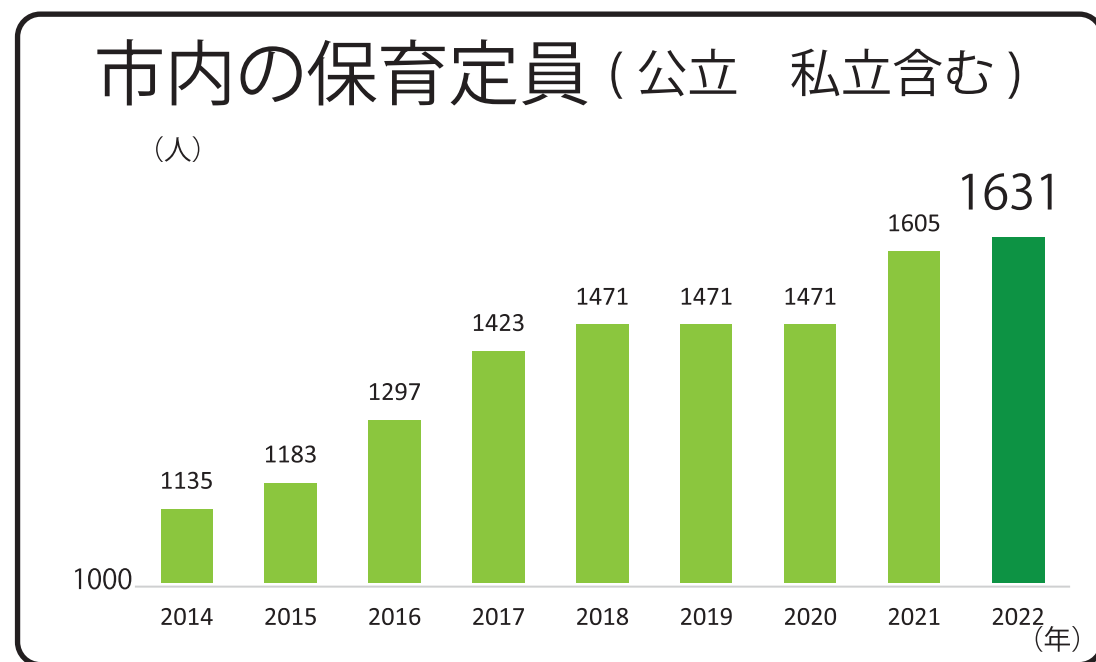


年代別に見ると
子育て世代が
着実に転入増

参照:住民基本台帳人口移動報告(総務省)

上のグラフは年代別にこの3年間の社会増減を示したものです。15歳から29歳の世代は交野から引っ越される方（転出）が上回りマイナスとなっていますが、0歳から14歳と30歳から44歳の世代はプラスが続いています。子育て世代が着実に交野に移り住んでいただいていることがわかります。

市内の保育を拡充➡待機児童の解消

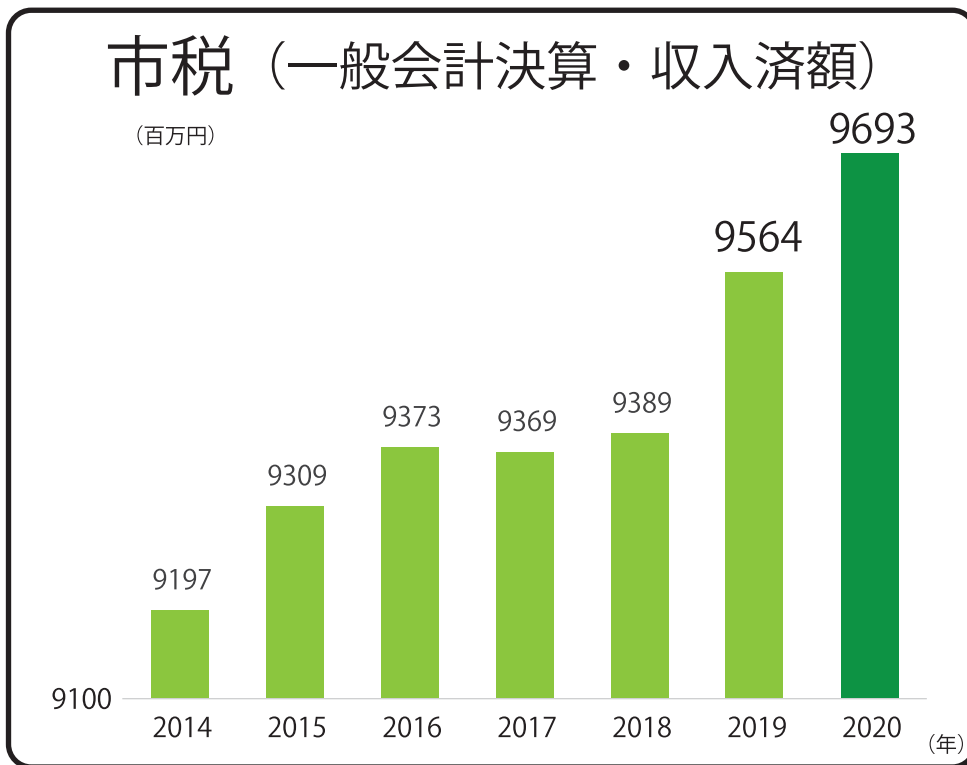


2014年に比べ
保育定員は1.4倍に
2年連続
待機児童**ゼロ**

参照：市ホームページおよび市事務事業概要実績報告書

子育て世代が安心して働くために、保育の受け皿を確保することはとても大切です。認定こども園への移行や園舎の増改築などにより公立園・私立園とも保育定員の拡充をはかり、2014年と比べ約1.4倍の定員となりました。2021年、2022年いずれも4月1日の時点で待機児童はゼロでした。

良好なまちづくりや若い世代の移住定住で税収増

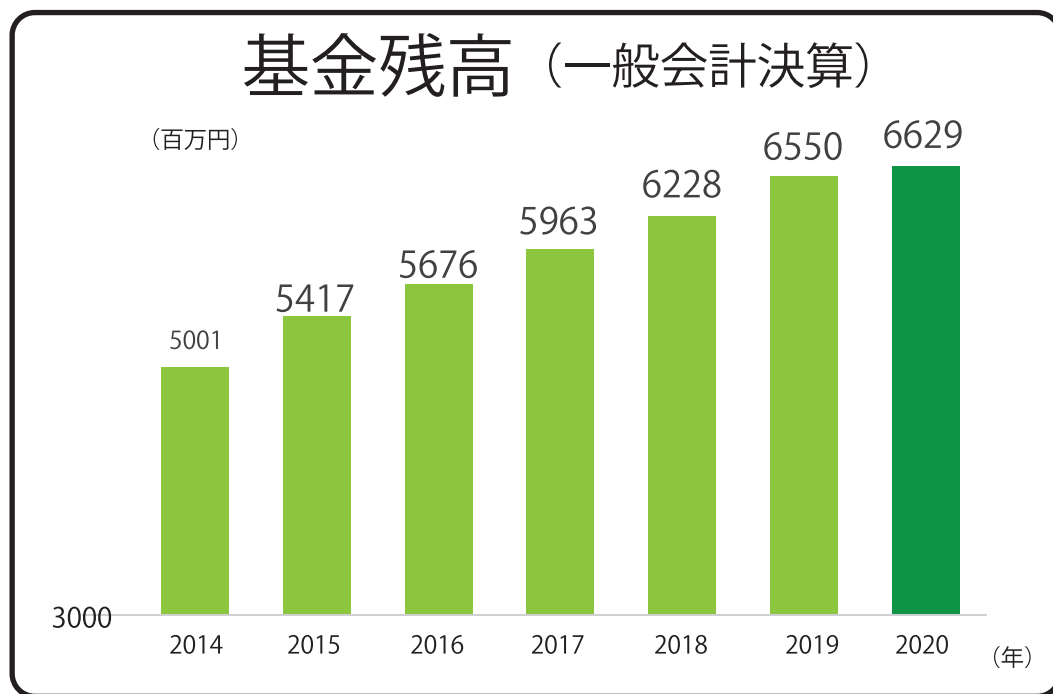


6年で
4.9億円
の税収増

参照：市歳入歳出決算書

良好なまちづくりにより住民誘致、企業誘致を進めることで市民税や固定資産税などの税収が増え、教育・子育て（医療費助成の18歳まで引き上げなど）や福祉政策の充実につながります。

堅実な基金増加



2014年比で
16億円
増加

参照：市歳入歳出決算書

庁舎、小・中学校、文化施設などの建物や道路・下水道などのインフラの老朽化により、これから改築・改修などに多額の財源が必要となります。将来にわたって都市機能を維持し、また向上させていくために、基金を積み立てています。

起きている変化

これまでの取り組み

今後の取り組み

将来にわたり安定した財政構造へ

起きている変化

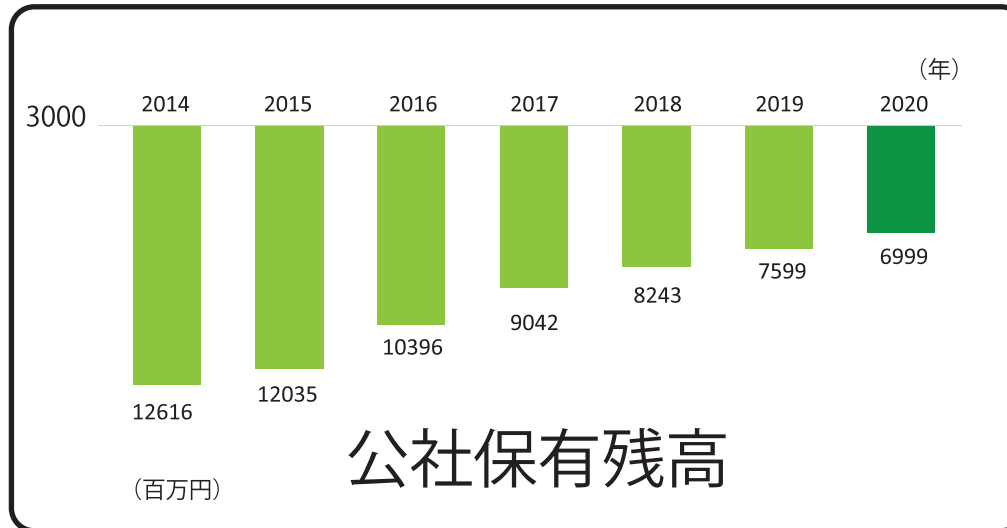
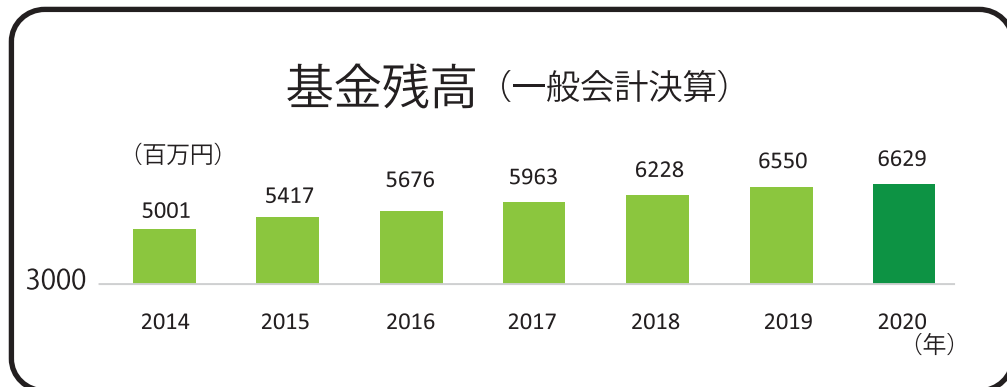
これまでの取り組み

今後の取り組み

将来負担を先送りにしない→土地開発公社の保有残高を圧縮

前頁再掲

参照:市歳入歳出決算書

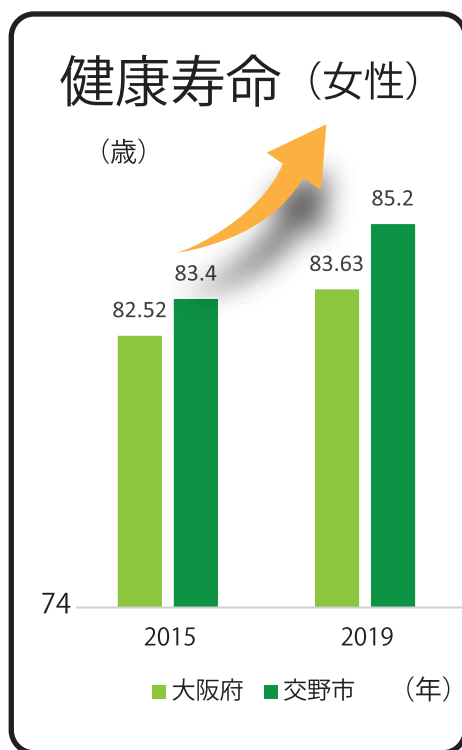
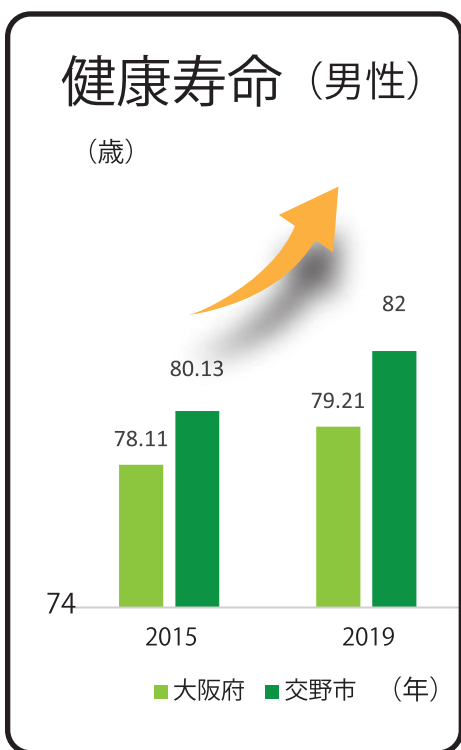


2014年比で
56億円
圧縮

参照:市土地開発公社決算書

土地開発公社が持つ土地の保有残高は市の`第2の借金`と言えます。2014年では基金(市の貯金)が約50億円に対し、公社保有残高(借金)は約126億円でしたが、将来負担を先送りしないためにこれまで着実に処理を進めてきました。今後も計画的に処理を進めていきます。

健康寿命は男女ともに上昇



4年で
男女とも
概ね2歳上昇

参照：大阪府

平均寿命は単純に出生から死亡までの期間の平均ですが、健康寿命はそのうち日常生活を概ね自立して過ごせる期間の平均です。男性・女性とも上昇しており、また、大阪府内の平均を上回っており、交野にお住まいの方々は健康に対する意識が高いことが伺えます。

起きている変化

これまでの取り組み

今後の取り組み

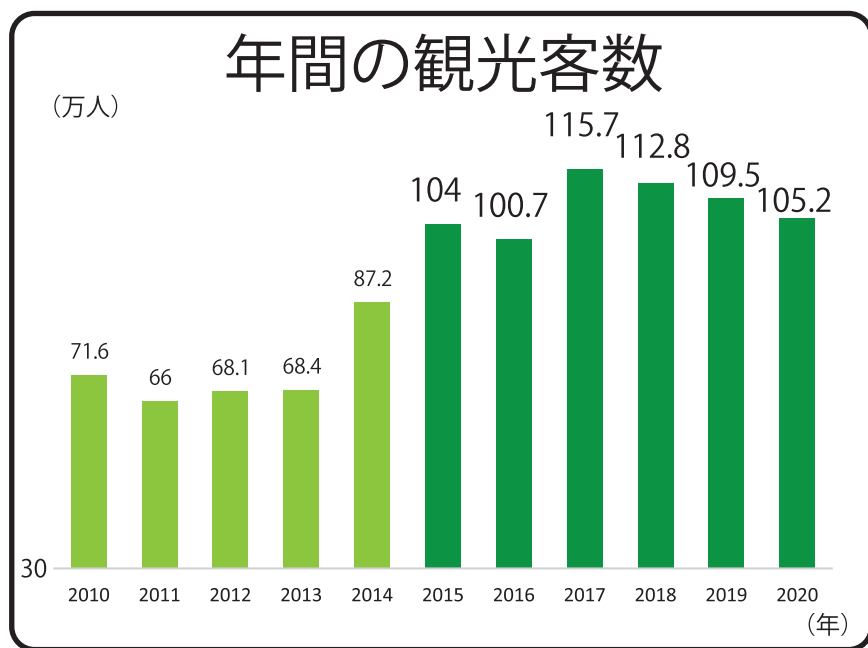
多くの人を訪れるまちへ

起きている変化

これまでの取り組み

今後の取り組み

年間の観光客数が着実に増加



年間
100万人超

参照:交野市調べ

交野市は自然や歴史遺産に恵まれたまちです。また、JRや京阪電車、第二京阪道路が通り、交通アクセスもよいまちです。長い間、年間の観光客数は60～80万人程度で推移していましたが、「星のブランコ」などは関西でも人気スポットになるなど、ここ数年で観光客数は100万人を超えています。